

令和5年度「小・中学校ジョイントスクール推進事業」第一中学校区実践計画書

事務局 八戸市立第一中学校(担当職・氏名:教頭・小野寺良治)

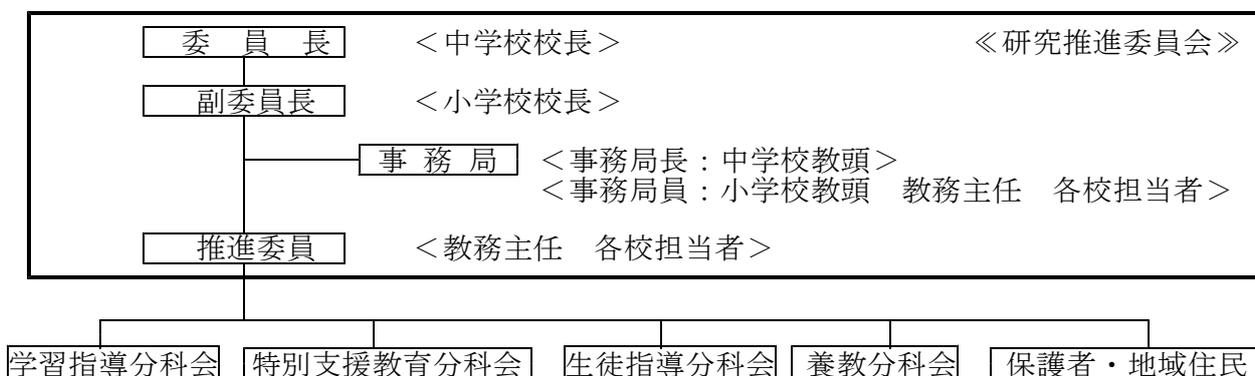
1 主題(13年次)

『学ぶ意欲を高め、自ら考える力を育てるための小・中連携のあり方』
～「話す」・「聞く」指導を通して～

2 主題設定の理由

「学ぶ意欲」とは「わかった・できた・身についた」が実感できる授業から生まれると考えるが、それを引き出す手立てとして、問題解決的な学習の推進が重要視されている。教師の働きかけである「しかけ」を基に、自分の考えを「話す」こと、他者の意見を「聞く」ことを重点的に指導していくことが問題解決をしていくために必要であると考えた。各校さまざまな実態があるものの、「話す」こと「聞く」ことの指導を継続することで一定の成果が期待できると考える。そこで、小・中学校で共通して取り組む事項(三校共通重点事項)を決め、実践することで、学ぶ意欲を高め、自ら考える力を育てることにつながると考え、主題を設定した。

3 小・中学校ジョイントスクール推進事業を推進するための組織



4 中学校区の重点指導項目

第一中学校区 重点指導項目

(1) 話すこと・聞くこと・書くことについて

・授業場面において、友達に自分の思いや考えを伝えたり、発表したり、ノートに書いたりすることができる。

<小学校全学年共通>

○相手にわかるように自分の思いや考えを伝えたり、相手を見て話をしっかりと聞いたりすることができる。また、考えを書くことができる。

<中学校全学年共通>

○教師や仲間に、根拠を明らかにして自分の意思を伝えたり、姿勢を正して教師や仲間のお話を理解しながら聞いたり考えたりすることができる。また、書くことができる。

(2) あいさつについて(絆づくり)

○小・中で連携して、あいさつの励行に努める。

・登下校時に教職員や仲間、地域住民等に対してさわやかにあいさつをすることができる。

・校内で教職員や来校者等に対してさわやかにあいさつをすることができる。

(3) 特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて(授業づくり)

○学習課題の設定、授業の流れがわかる板書、授業形態の工夫について小・中で連携する。

・問題解決的な学習の流れを意識した授業づくりをする。

・ペアやグループでの話し合い等、様々な学習形態を工夫する。

(4) 1人1台端末の活用について(授業づくり)

○情報活用能力を高めるために、必要に応じてコンピューター等の情報手段を適切に用いて情報を整理・比較したり、得た情報を分かりやすくまとめたり、伝達したりすることができる。

(5) 居場所づくりについて

○相互参観による具体的な児童生徒の姿を基にした情報交換の実施。

○不登校を未然に防ぐために、学校間の連携と家庭・地域社会との連携を深める。

